

小学5年3組 外国語活動学習指導案

指導者	学級担任	深田 剛生
	外国語活動担当教員	福島 歩惟
	外国語指導助手(ALT)	片 寄 メーガン

“What’s this?” を使ったクイズにおいて、ヒントを出す役を設定したこと、クイズ大会の途中で、どんなヒントがよいかを学級全体で学び合う場を設定し、その後にもう一度クイズを出し合う場を設定したことは、場面や状況に合わせて適切な表現を使って、積極的にコミュニケーションを図ろうとする力の素地を培うのに有効であったか。

1 単元名 どんなヒントがいいのかな? ～What’s this? を使ったクイズ大会～

2 授業の構想

(1) 次の日記は、4月に初めて外国語活動の授業を実施したときの児童Aの日記である。

今日は初めて外国語活動がありました。4年生のころは単語が多かったけど、今日は文を習ってちょっと大人になった気分でした。外国語活動の授業はすごく楽しくてこれから楽しみです。(児童A)

この日は、新しいクラスメイトと、英語表現を使って自己紹介する活動を行った。「これから、毎週外国語活動の時間があるぞ。」という期待感が、「実際に英語表現を使って自己紹介ができた」という達成感を味わうことによって、ますます膨らんでいることがうかがえる。また、別の授業では、児童B、児童Cが次のようなふりかえりを書いている。

今日は、自分たちの班でやりました。ヒントがないと全然わかりそうになかったけど、わかる前に友だちが当てたりしました。出題者も解答するがわもとてもおもしろかったです。またやりたいです。(児童B)

今日は「わたしはだれ？」クイズをして、自分が出題者になりきってやってみました。最初はなんて言おうかまよっていたけど、案外わかってくれてよかったです。(児童C)

児童Bのふりかえりからもうかがえるように、本学級の子どもたちは、外国語活動の時間に行うゲームをととても楽しみにしている。その楽しさの中には、児童Cが書いているような、新しい表現が覚えられたり、聞き取れたり、上手に伝えられたりといった達成感が少しずつ味わえる楽しさがあるからだと考えている。自信がもてなくて、みんなの前ではなかなか発話できずにいる子どもたちも、ゲームの中で自然に発話できる場面を設定すると、「なんて言うんだっけ？」と聞いたり、教師の口の動きを何度も見てまねたりして、少しずつ英語を使ったコミュニケーションが図れるようになっていく。ゲームの中で必然性のある場面を設定すると、少しずつ経験を重ね、「これなら言えそうぞ」と自信をもち、「外国語で伝えてみたい」という思いをさらに強くしていく。これまでの外国語活動のなかでは、伝えたい気持ちが強くなると、そのとき学習した英語表現を使うだけでなく、身ぶり手ぶりを使ったり、今までに学習した英語表現を思い出したりして、工夫して自分の考えを伝えようとする姿が見られるようになってきた。

そこで、子どもたちがゲームの中で楽しく活動しながら英語での表現に慣れ、そのプロセスを通して、「英語を使って伝えたい」と思い、それに挑戦できるような外国語活動をつくりたいと考えた。

(2) 前述のように、本学級の子どもたちは、同じような場面設定の中でくり返し発話したり、それを聞いてわかろうとしたりする活動を通して、少しずつ自分の表現に自信をもって発話できるようになったり、友達の表現の良さに気付いてまねしたりしようとする。したがって、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するためには、英語を使う必然性のある場面を設定して、その中で「自分の表現が相手に通じる」という自信をもてるようにしていくことが大切であると考えた。そこで本単元では、料理の素材をテーマにした“What’s this?”クイズの活動を通して、“What’s this?”, “It’s ~.”の表現や、

ヒントで使用する“**It’s in～.**”, “**It’s (color).**”, “**○○ like this.**”の表現に慣れ親しませたい。また、子どもたちに、解答者だけでなく、ヒントを考えて解答者に伝える役や、出題する役も経験させることで、相手の立場に立って伝えようとする態度を培っていききたい。

本単元で子どもたちが初めて使う表現は“**What’s this?**”と“**It’s in～.**”である。“**What’s this?**”は、クイズを出題したり、答えたりする中で繰り返し使うので自然に慣れ親しむことができる。ヒントを伝える際に使う“**It’s in～.**”は、例えば“**It’s in curry and rice.**”のように、その素材がどのメニューに含まれているかを表す表現として扱う。同じ表現方法を使いながら、目的語を変えるだけでヒントを増やしているため、今回はこの表現を扱うことにした。メニュー等を表す、子どもたちが知らない単語については、ALTに聞いたり、難しいものについては日本語で付け加えたりできるようにしながら、子どもたちが無理なく英語に慣れ親しんでいけるようにする。活動の中で、「これって英語で伝えたいんだけど、どう言えばいいのかな?」と自分からまだ知らない英語表現について ALT に聞いてみたくなることも、問題やヒントを自分で考える良さだと考えている。

ヒントを伝える際には、自己紹介クイズで取りあげた“**I like ～.**”をもとにした“**○○ like this.**”という表現や、色を表す“**It’s green.**”など、今までに学習してきた表現を使う。今までに学習した表現を繰り返し扱うことで、その表現に慣れたり、知っている表現がいろいろな場面で使えるという実感をもたることができると思った。さらに、“**○○ like this.**”の表現を扱うことについては、“**It’s in～.**”と同様に主語となる人物を変えるだけでヒントを増やせることに加えて、以前に学習した自己紹介クイズとつなげることで、英語を通じて友達とコミュニケーションを図る楽しさを味わわせたいと考えた。

ここで培った、既知の表現を用いてメッセージを伝えたり、受け取ったりしようとするコミュニケーション能力の素地は、中等部において育てたい「相手の表情や状況等のさまざまな要因を考慮しながら、最も適切な単語や表現を選択し、相手に自分の考えや気持ちを伝える力」につながると考えている。

(3) 本単元のクイズ大会では、出題者と解答者だけでなく、ヒントを出す役を設定する。ヒントを出す役は、出題者からその場で答えを聞き、3つの表現方法を使って解答者に答えが伝わるよう、ヒントを出す。一般にクイズを出題する場面において、出題者は「解答者によく伝わるように」という目的をもたない。しかし、ヒントを出す役は、①どんなメニューに含まれるのか、②どんな色をしているのか、③これを好きなのはだれか、という制約された条件のヒントを自分で考えて何とか伝えようとする。出題者は、この条件に合う問題を考える楽しさを、ヒントを出す役は制約された条件の中で何とかして情報を伝える楽しさを、解答者はヒントをもとに少しずつ答えに近づいていく楽しさを味わえる。その中で、どんなヒントがよいのか学び合う活動を入れることで、はっきりと発話することへの意識や、相手の知っている情報を考慮するなどの相手意識を高めていきたい。また、「伝わった」という成功体験を積み重ねることで、自信をもって英語で発話できるようになってほしい。

単元の導入ではまず、教師が出題する“**What’s this?**”クイズに学級全員で挑戦する場を設定する。ここでは、知っている英語表現や、身ぶり手ぶりのヒントから「わかった」という喜びを体験させることで、「自分たちでもクイズを作ってみたいな。」という子どもたちからの願いを引き出したい。ここで出会う問題は次のようなヒントをもとにしたクイズである。

ヒント1 : It’s red . ヒント2 : It’s in curry and rice. ヒント3 : Rabbits like this. “ What’s this? ” “ It’s a carrot. ”	ヒント1 : It’s green. ヒント2 : It’s in salad. ヒント3 : It’s in white stew. “ What’s this? ” “ It’s broccoli. ”
---	--

ここでは、ジェスチャーで情報を補ったりすることで、無理なく理解できるように配慮する。

この後、第1次では、“**It’s (color).**”や“**It’s in～.**”の表現を使ったヒントゲームや、以前に行った経験のある自己紹介クイズの活動を通して、クイズの表現に慣れていけるようにする。また、“**It’s in～.**”の表現を使って、国や地域によって、料理に使う素材に違いがあることも知る。

第2次では、まずヒントを考える活動に慣れる。グループで相談して、どんなヒントがよいか考えられるようにしておく。また、ヒントを作るためにはどんな情報が必要かを共通理解することで、自分が

出題する際に、ヒントを出す人が分からなくて困りそうな表現を調べておく。

本時では、各グループをA～Dの4つに分け、全員が出題者、解答者、ヒントを出す役になるように役を交代しながらクイズを出し合う。全員が1問は出題できるように、ヒントは2人で相談して考えられるように設定した。また、色や、使われるメニューの英語表現については、予想されるものをあらかじめ出題者がALT等に聞いて調べておき、ヒントを考える役は出題者に聞けるようにしておく。

	1回目	2回目	「こんな言い方がしたいな」や「どんなヒントがよいか」について考えを出し合う。	3回目	4回目	クイズ大会をふりかえり、どんな伝え方が有効だったかをふりかえり、共有する。
出題者	A	B		C	D	
解答者	B	C		D	A	
ヒント	CD	DA		AB	BC	

2回目の後と4回目の後でふりかえりを行うことで、どんなヒントがよいか、ほかにどんな表現方法があるか考えを出し合い、伝え方や伝える内容について学び合う場を設定する。ヒントを出す側の「こうしたら伝わった」という手ごたえや、解答者側の「こんなふうに伝えてくれたからよくわかった。」という感想を共有する場を設定することで、場面や状況に合わせて、適切な表現を使って相手に伝えようとする力の素地を培っていきたい。

学級担任は主に個別のはたらきかけを行い、何とかして答えを伝えようと工夫する姿を見つけて価値づけたり、どんなヒントを出してよいか分からずにつまずいている子どもを支援したりする。また、ヒントをよく聞いて「それって〇〇ってこと？」と聞き返したり、相手の反応をよく見て伝え方を工夫したりしているような子どもたちのよい姿については、外国語活動担当教員と密に情報交換をして、全体に紹介できるようにする。外国語活動担当教員は、全体を見渡し授業を進行させる。学び合いの場面では、よい姿を取りあげて広げたり、子どもたちがうまく表現できない点についてもう一度全体で取りあげて指導したりする。ALTは、主にヒントを伝える役の子どもたちを支援する。英語表現を直接伝えたり、よい表現を価値づけたりする。

3 展開計画（全4時間 本時4／4）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は学級全体の学び合いの場面）
1	“What’s this?” クイズに挑戦しよう	1	<ul style="list-style-type: none"> クイズで用いるヒントの表現“It’s in～.”や“It’s (color).”を知る。 Let’s Chant ♪Bingo♪ Activity1 メグ先生の“What’s this?”クイズに答えよう カナダと日本の食文化を比べる。 Activity2 ヒントゲームをしよう ヒントで使う表現を知る。
		2	<ul style="list-style-type: none"> ヒントで使う“It’s in～.”, “It’s (color).”, “〇〇 like this.”の表現に慣れる。 Let’s Chant ♪Bingo♪ Let’s Play キーワードゲーム “〇〇 like this.”の表現に慣れる。 Activity “What’s this?”クイズのヒントをつくろう “It’s in～.”, “It’s (color).”, “〇〇 like this.”の表現を使ってヒントをつくる。 <p>◇どんなヒントが分かりやすいか話し合うことで、限られた条件の中でも、様々な表現方法で相手にメッセージを伝えられることに気付く。</p>
2	“What’s this?” クイズを作ってクイズ大会をしよう	3	<ul style="list-style-type: none"> “What’s this?”クイズ大会で出題する問題やヒントを考える。 Let’s Chant ♪Bingo♪ Activity1 先生たちの“What’s this?”クイズに挑戦しよう Activity2 オリジナル“What’s this?”クイズの問題をつくろう 自分がクイズ大会で出したいクイズの問題を考える。 予想されるヒントを考えておく。
		④	<ul style="list-style-type: none"> クイズ大会を通して、“What’s this?”やヒントの表現に慣れる。 Let’s Chant ♪Bingo♪ Activity1 “What’s this?”クイズ大会をしよう <p>◇よかったヒントや、ヒントを出す際に難しかったこと、気をつけたことを</p>

		話し合い、よく伝えるための工夫を学び合う。
--	--	-----------------------

4 評価計画

次	時	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
1	1		ヒントゲームで“ What's this? ”や“ It's ~. ”を声に出して言っている。	同じメニューでも国によって使う材料がちがう場合があることに気づいている。
	2	どんなヒントなら相手によく伝わるか、友だちと考えを出し合っている。	キーワードゲームで“○○ like this. ”を声に出して言っている。	
2	3	進んで問題をつくったり、予想されるヒントの表現を調べたりしている。		
	④	What's this? クイズに、進んでヒントをつくったり、答えたりしようとしている。		同じ物を表すにも様々な表現があることに気づいている。

5 本時の学習

(1) ねらい

What's this? クイズ大会の活動を通して、どんなヒントがよいか実際にクイズを出し合った後に意見を交換することで、場面や状況にあった適切な表現方法を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
1. 前時までの学習をふり返り、本時のめあてを確認する。	・料理の素材、メニュー、色、好きなものについて、思い出せるように今までの学習をふりかえらせる。
What's this? クイズ大会 ～3つのヒントで伝えよう～	
2. 6つの場所に分かれて、1回目の What's this? クイズ大会をする。 ○ヒントが全く出せないでいるグループ ○ヒントは出しているが伝わらないグループ ○ヒントから答えが分かったグループ	・1人1問ずつ出題できるよう、全員に“ What's this? ”袋の中に、問題を入れて用意しておく。 →模造紙をもとに、一緒にヒントを考える。 →言いたいけど表現できないヒントがないか尋ねるなど、相手に伝わるヒントが出せるよう支援する。 →どのヒントで伝わったのか、何がよかったのか掘り下げ、次に生かせるようにする。
3. 「こんな言い方がしたくなった」ということや「こんなヒントでよくわかった」ということを学級全体で出し合う。 ・ピーマンみたいに「緑もあるけど黄色もある。」という場合、どう言えばいいのか。 ・相手が知っていそうなことを考えてヒントを選ぶといい。	◎多くの子がつまずいていた表現を取りあげて手本を示したり、うまく伝わった表現を取りあげて紹介したりすることで、後半に生かせるようにする。 ・学び合いの場面で共有した工夫を生かしている姿を認める。
4. もう一度6つの場所に分かれて、2回目の What's this? クイズ大会をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点（言語や文化に関する気付き） —</p> <p>クイズを出したり答えたりする活動を通して、同じものを表すにも様々な表現方法があることに気づいている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発表・ワークシート】</p> <p>・友だちとの意見交換をもとに、自分の伝え方を工夫したところを中心にふりかえるよう伝える。</p> </div>
5. 本時をふり返る。 ・3つの言い方だけでも、きちんと伝えることができた。相手が何を知っているのか考えてヒントを出すと伝わると思った。	